

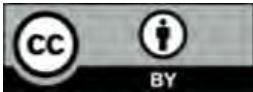
2025年10月16日

令和7年度国立国会図書館書誌調整連絡会議

# 「国立国会図書館書誌データ作成・提供 計画2026-2030」素案へのコメント

中井 万知子

(日本図書館協会分類委員会)



N D L 書 誌 調 整 連 絡 会 議 2 0 2 5

## 内容:

- NDLの書誌データ計画の位置づけ
- 今回の「素案」の位置づけ
- 個々の計画についてのいくつかの“？”
  - 全国書誌の「拡張」
  - 国内の典拠の「共同提供」
  - 有体資料と無体資料の「組織化作業の一元化」
- 感想

2025/10/16

2

## NDLの書誌データ計画の位置づけ

- 「書誌データの作成・提供の方針(2008)」以来、3～5年のスパンで書誌データに関する計画を策定し続けている意味
- 「2008」策定時のねらい
  - 書誌部門の意思表示
  - NDLの資源分配(特にシステム資源)に手を上げる
  - 「提供」に重点
    - 方針1: 書誌データの開放性を高め、ウェブ上での提供を前提として、ユーザが多様な方法で容易に入手、活用できるようにする。
- (それ以後の計画に明示されている・いないにかかわらず、)NDLの書誌データにはこれまでに多くの成果があった
  - オープンデータ化、Web NDL Authoritiesの公開、OCLCへの書誌データ提供、VIAFへの参加、NCR2018策定への協力および適用とMARCデータへの反映、NDLサーチにおける書誌データ関係機能・・・

2025/10/16

3

## 今回の「素案」の位置づけ

- これまでのNDLのビジョンとの関係
  - 関連するビジョンの柱に書誌計画を紐づける
  - 書誌関係の目標は、ビジョンにおいてそれほどクローズアップされることはなかった
- 今回は新ビジョンは策定中で、同時並行
- そのため、この段階では、「素案」は曖昧模糊とした感じを免れない
- 「紙と電子の一元化」が新ビジョンのポイントということ⇒今回の書誌計画は、これまでの書誌部門中心のものから、より拡張された範囲の計画になる意味合いを持つ？
- 同時に、「ビジョンに基づく取組」として、全国書誌、典拠といった書誌調整のコアの要素を打ち出している
- その上で、いくつかの気になる点について

2025/10/16

4

# 全国書誌の「拡張」

- 「拡張された全国書誌」というフレーズ
- ⇒「NDLおよび国内の諸機関（公共・大学・専門図書館や学術研究機関など）の所蔵資料とともに、アーカイブされた電子情報資源のデータベースも検索対象としている。この点で、NDLサーチは拡張された全国書誌であることができる。」（『図書館情報学事典』2023刊の「全国書誌」和中幹雄氏執筆より）
- は、「NDLサーチ」が主語。また、書誌データの提供に限らず検索機能など、サービスの多様性への含みがある
- 素案の「全国書誌の『拡張』」は、書誌データそのものの提供と解釈されるが、NDLの所蔵資料以外の書誌データでターゲットになるものは何か？
  - 「拡張」ではなく、館法第7条に基づく「本来の全国書誌」の追求ではないのか
  - 「条件の整ったもの」という前提があるのみか
- その目的は何か？

2025/10/16

5

## 国内典拠の「共同提供」

- 古い話になるが、2003年の第4回書誌調整連絡会議で、「国内名称典拠コントロール」のシステム概念図が示された
  - 国立国会図書館書誌部『書誌調整連絡会議記録集』第4回,国立国会図書館. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/999539>
- 挫折したのは、参加機関の典拠ファイルの同定やNDLによる承認機能を備えた「典拠統合DB」といった新システムが必要だったことが大きい
- 当時と違うのは、典拠の提供システムとしてWeb NDL Authoritiesが存在すること(ただし、仮想的な関連づけであったとしても、同定の仕組みは必要)
- また、当時は伝統的な「図書」の著者の国内典拠コントロールが念頭にあった。今回の計画は「著作」典拠がターゲット？
- 主題組織化の側面から言えば、統制語でありながら国内で二本立てになっているNDLSHとBSH(基本件名標目表)の件名典拠の一本化を実現してほしい(といっても、日本図書館協会側からのアクションが必要だが)

2025/10/16

6

## 有体資料と無体資料の「組織化作業の一元化」

- 現在、組織化作業という観点では、有体資料は収集書誌部、無体資料は電子図書館課に完全に分離。システム面など多くの面で、「今後の検討」を強く期待するしかない
- ただし、提供面では、「NDLサーチ」で一元化してきた
- 共通のデータフォーマットとしての役割を果たしている「国立国会図書館メタデータ・ダブリンコア記述(DC-NDL)」(電子情報部が所管)
  - ただし、書誌データに対しては、NCR2018由来のデータ項目が、DC-NDLには一部しか反映されていない⇒NCR2018で実現を目指す目録の機能の実現との関係は？
  - 「電子書籍・電子雑誌」のメタデータは、DC-NDLに準拠しているとはいうものの、データ提供はTSV形式が基本

2025/10/16

7

N D L 書 誌 調 整 連 絡 会 議 2 0 2 5

## 感想

- 大きな計画事項でありながら、現段階においては内在的な目的がいまいちはっきりしない
  - 3つの括りに分ける構成がわかりにくいのでは？
- 「垣根をこわす」という通底した意図
- 本文中に、「メタデータ」と「書誌データ」という語が、それほどはっきりした使い分けが感じられないまま存在するが、今回の計画も「書誌データ作成・提供計画」であり、「メタデータ作成・提供計画」にはなり得ない？

以上

2025/10/16

8